

#### 01-03-01 ロタワクチン(出来るだけ早い開始を)

ロタワクチン接種は生後6週からですが、接種できる期間が短いため出来るだけ早く開始して下さい。ロタワクチンは、生ワクチン(生=なま: 生きている/軽くその病気にかけるワクチン)です。また、作っているワクチン会社によって飲む回数が違います(2回と3回)。どちらも開始時期は、生後6週(=生後42日/約1か月半)からです。間隔は4週間以上開けて2回あるいは3回飲んで終了です(=1回目と2回目、3回飲む場合は2回目と3回目の間隔も4週間以上あけます)。月齢が大きくなると副作用の心配が多くなるため、決められた日齢を過ぎると(=2回接種と3回接種とでは終了日が違います)飲めなくなります。1回目を出来るだけ早く(生後6週を迎えたら)開始してください。

一方、ロタウイルスは5歳までにほぼ全ての子どもが感染するといわれています。しかし、一度かかれば一生かからない病気ではなく、何度もかかる病気です。最初にかかった時の症状が一番強く出て腸重積症の原因になるとも言われています(⇒最初をワクチンで軽く済ませる)。ところが、かかるたびに症状が軽くなるため、大人がかかっても無症状のことが多く、知らないうちに子どもにうつしてしまう事もあります。小さい子が、ロタウイルスの付いた食べ物や飲み物・オモチャなどを直接口に入れたり、それらに触れた手や指をナメたりすると、ごく少量でもお腹に入ったウイルスは、ドンドン増えて“大暴れ”(=ものすごい下痢)します。さらに、激しい嘔吐も始まり、身体の水分は、上(=嘔吐)から下(=下痢)から急激に失われ(=ひどい脱水症)、子どもに点滴が出来なかった頃は多くの子どもが死亡していました。最近(2012~2017年統計)でも毎年5~18人が死亡しています。死亡者は開発途上国に比べ少ないのですが、感染力が強いためかかった子どもの数には大きな差は有りません(日本では、2012~2017年の統計で、5歳までにロタウイルス胃腸炎で毎年入院した子は、推定で約2.65~7.8万人となっています)。

筆者が新米小児科医の頃、冬の一時期、夜~朝にかけて脱水症+意識不明の子が次々に救急車で運ばれ、多くの子どもが死亡していた事を思い出します(=50年以上前の話です)。

— 09-03-04 『“はしか(=麻しん)”や“下痢・嘔吐”による死亡』の稿参照 —

